

ニュース JAFIC EYE No.145

1～4月の産地市場における主要魚種の動向について

産地全体

1～4月までの全国主要港68港の水揚量は、55万8千トンで、前年同期の63万8千トンを12%下回った。2015年以降では最も少なく、過去5年平均の91%にとどまった。

平均価格は、水揚量の減少にともない、多くの魚種で過去5年平均を上回り、2015年以降で最高値であるものも多かった。一方、高級魚を中心に一部の魚種では、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、ホテルや飲食店向けの需要の低下やスーパー・百貨店の営業時間短縮の影響により、相場が下がった。

表1. 全国の1～4月累計水揚量(t)

	数量
2015年	589,718.4
2016年	614,087.4
2017年	605,443.6
2018年	617,473.9
2019年	637,716.5
2020年	558,305.0
過去5年平均	612,887.9

(以降水揚量出典:おさかなひろば)

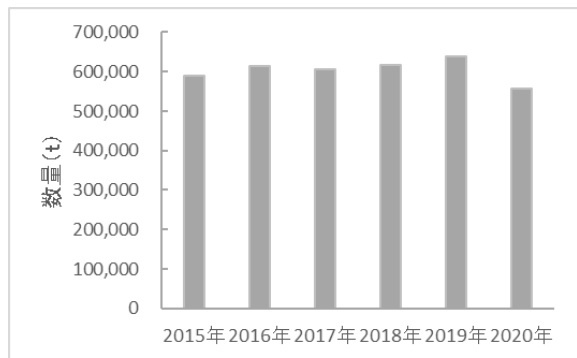


図1. 全国の1～4月累計水揚量の推移

マアジ

1～4月までのマアジの全国主要港の水揚量は、前年同期(2万6千トン)を14%下回る2万2千トンであった。過去5年平均と比較すると26%少なく、2015年以降で最低の水揚量であった。

平均価格は、山陰沖ではマイワシ漁に、東シナ海ではブリ漁に漁獲努力が向いたことや、時化による休漁も多く、特に3、4月は例年よりも低調な漁模様であった。このため、前年同期(199円/kg)の12%高の223円/kgで、2015年以降で最も高い価格であった。

表2. マアジの累計水揚量(t)と平均価格(円/kg)

	年間累計		1-4月累計	
	水揚量	価格	水揚量	価格
2015年	120,258.6	172	32,845.5	163
2016年	101,162.6	184	35,613.3	162
2017年	111,172.8	168	34,812.7	179
2018年	83,508.6	190	23,021.9	183
2019年	72,675.4	230	26,249.9	199
2020年			22,494.6	223
過去5年平均	97,755.6	185	30,508.7	176

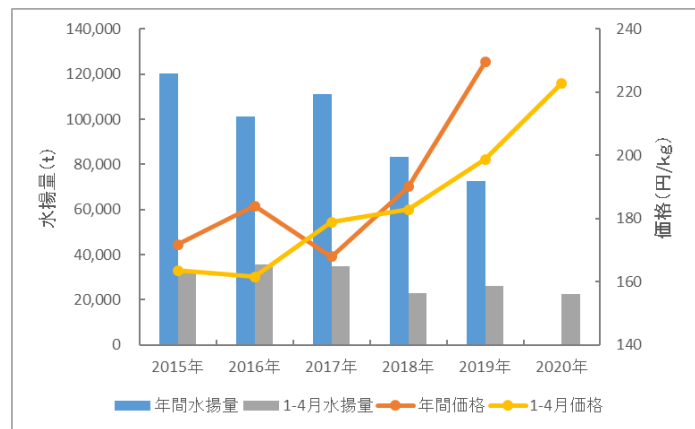


図2. マアジの累計水揚量と価格の推移

さば類

1～4月までのさば類の全国主要港の水揚量は、前年同期(20万2千トン)を34%下回る13万3千トンであった。東シナ海から日本海側で不漁であったため、過去5年平均と比較すると38%少なく、2015年以降で最低であった。

平均価格は、前年同期(104円/kg)並みの103円/kgであったものの、全国的に水揚量が少なかったため、過去5年平均の27%高であった。

表3. さば類の累計水揚量(t)と平均価格(円/kg)

	年間累計		1-4月累計	
	水揚量	価格	水揚量	価格
2015年	495,873.6	78	205,341.7	74
2016年	487,501.8	79	214,720.3	67
2017年	470,158.4	83	209,951.9	76
2018年	505,895.3	97	247,528.2	82
2019年	369,995.9	104	202,128.5	104
2020年			133,327.3	103
過去5年平均	465,885.0	88	215,934.1	81

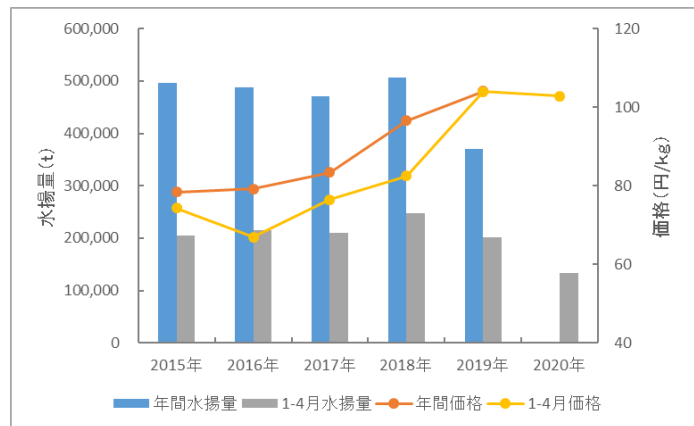


図3. さば類の累計水揚量と価格の推移

マイワシ

1～4月までのマイワシの全国主要港の水揚量は、前年同期（14万1千トン）の2.2倍の19万2千トンであった。1～4月にかけて常磐沖・山陰沖・若狭湾・富山湾など全国的にまとまった漁獲が見られ、過去5年平均を36%上回り、2015年以降で最も好調であった。

水揚量が増加したものの値段は崩れず、平均価格は、前年同期並みの45円/kgであった。

表4.マイワシの累計水揚量(t)と平均価格(円/kg)

	年間 累計		1-4月 累計	
	水揚量	価格	水揚量	価格
2015年	205,481.2	57	45,934.7	53
2016年	288,740.1	52	79,617.4	59
2017年	413,471.2	49	110,731.4	52
2018年	408,810.3	42	96,900.3	44
2019年	489,882.8	41	141,220.4	45
2020年			191,619.5	45
過去5年平均	361,277.1	47	94,880.8	49

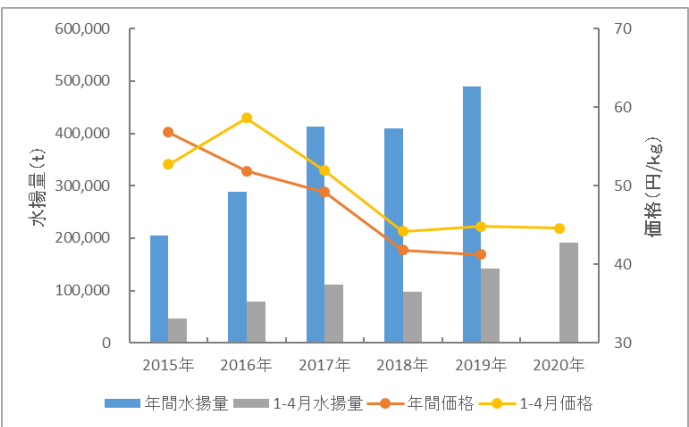


図4.マイワシの累計水揚量と価格の推移

カタクチイワシ

1～4月までのカタクチイワシの全国主要港の水揚量は、前年同期（7千900トン）を63%下回る2千400トンであった。過去5年平均を70%下回り、2015年以降で最低の水揚量であり、好調なマイワシ漁とは対比的に減少傾向が続いている。

平均価格は、前年同期（54円/kg）の57%高の79円/kgであった。極めて低調な漁模様であったことから、過去5年平均の47%高で、2015年以降で最も高かった。

カタクチイワシはカツオ一本釣りの餌としても重要であり、これまでの漁模様から今年も餌不足が心配されている。

表5.カタクチイワシの累計水揚量(t)と平均価格(円/kg)

	年間 累計		1-4月 累計	
	水揚量	価格	水揚量	価格
2015年	38,095.9	46	9,238.2	48
2016年	29,603.7	47	5,168.2	64
2017年	28,432.9	51	5,786.4	57
2018年	12,645.9	52	4,006.3	55
2019年	21,904.2	59	7,850.2	51
2020年			2,371.1	79
過去5年平均	26,136.5	50	6,409.9	54

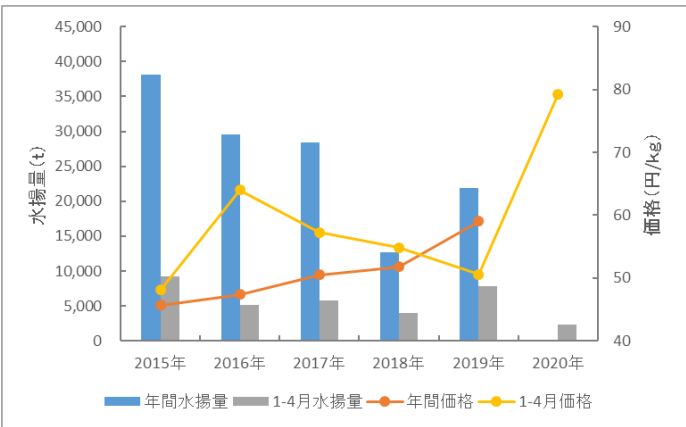


図5.カタクチイワシの累計水揚量と価格の推移

ウルメイワシ

1～4月までのウルメイワシの全国主要港の水揚量は、前年同期（8千700トン）を74%下回る2千300トンであった。過去5年平均を78%下回り、2015年以降で最低の水揚量であった。

平均価格は、前年同期（67円/kg）の31%高の87円/kgであった。極めて低調な漁模様であったことから、過去5年平均と比べても46%高で、2015年以降で最も高かった。

表6.ウルメイワシの累計水揚量(t)と平均価格(円/kg)

	年間 累計		1-4月 累計	
	水揚量	価格	水揚量	価格
2015年	69,561.8	47	13,029.0	48
2016年	61,290.3	56	17,026.7	59
2017年	43,512.7	58	10,423.7	67
2018年	26,900.4	60	3,487.2	69
2019年	38,628.0	76	8,653.8	67
2020年			2,266.7	87
過去5年平均	47,978.6	57	10,524.1	60

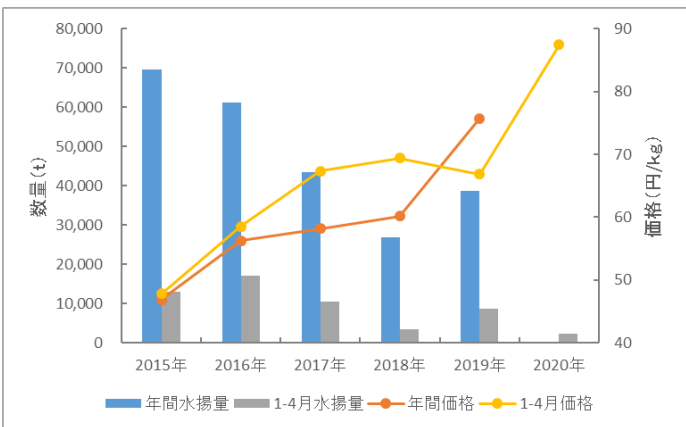


図6.ウルメイワシの累計水揚量と価格の推移

カツオ

1～4月までの生鮮カツオの全国主要港の水揚量は2千100トンで、前年同期(5千100トン)の3割にとどまった。今年は一般的に群れが薄く、北上期の小笠原諸島水域の漁場形成も皆無であった。また、例年より早い4月から伊豆諸島水域でビンナガ漁が本格化した。このため水揚量は過去5年平均を59%下回り、2015年以降で最低であった。

平均価格は、前年同期(420円/kg)の32%高の580円/kgであった。漁模様が極めて低調であったことや、漁場が伊豆諸島水域と近いことから鮮度の良い新口(前日物・当日物)の水揚げ割合が増えたこと、3kg台とサイズが大きいこともあり、過去5年平均の46%高で、2015年以降で最も高かった。

表7. 生鮮カツオの累計水揚量(t)と平均価格(円/kg)

	年間 累計		1-4月 累計	
	水揚量	価格	水揚量	価格
2015年	53,377.2	360	9,369.6	432
2016年	42,426.8	416	6,812.2	473
2017年	48,134.6	373	6,835.6	471
2018年	45,556.3	307	7,993.7	409
2019年	41,768.3	306	5,136.2	420
2020年			2,122.6	580
過去5年平均	46,252.6	353	7,229.5	440

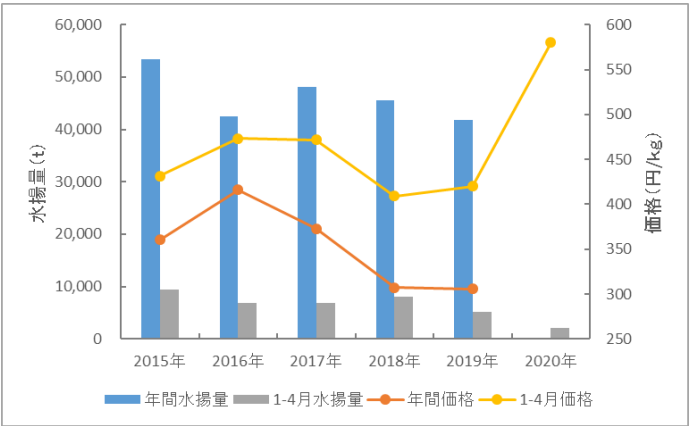


図7. 生鮮カツオの累計水揚量と価格の推移

ビンナガ

1～4月までの生鮮ビンナガの全国主要港の水揚量は、前年同期(6千700トン)を28%上回る8千600トンであった。過去5年平均を10%上回り、2015年に次いで水揚げが多かった。

平均価格は、前年同期(483円/kg)の12%安の427円/kgであった。カツオ一本釣りによるビンナガ漁が、例年よりも伊豆諸島～房総半島沖で漁獲がまとまるのが早く、4月から好調であったため、過去5年平均の6%安と2015年に次いで安値であった。

表8. 生鮮ビンナガの累計水揚量(t)と平均価格(円/kg)

	年間 累計		1-4月 累計	
	水揚量	価格	水揚量	価格
2015年	34,528.2	398	10,147.8	413
2016年	25,862.6	412	7,165.8	487
2017年	29,396.8	383	7,494.7	448
2018年	27,919.2	424	7,441.9	458
2019年	17,846.2	478	6,686.5	483
2020年			8,558.5	427
過去5年平均	27,110.6	413	7,787.3	454

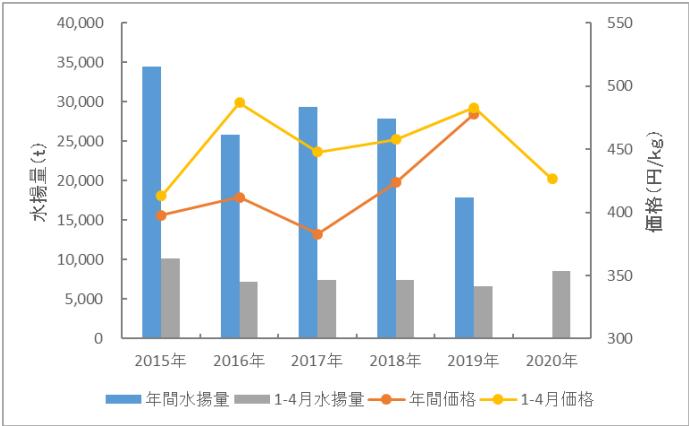


図8. 生ビンナガの累計水揚量と価格の推移

メバチ

1～4月までの生鮮メバチの全国主要港の水揚量は、1千600トンで過去5年平均を13%下回るものの、前年同期(1千700トン)並みであった。

平均価格は、前年同期(1,236円/kg)の12%高の1,380円/kgであり、過去5年平均並みであった。

表9. 生鮮メバチの累計水揚量(t)と平均価格(円/kg)

	年間 累計		1-4月 累計	
	水揚量	価格	水揚量	価格
2015年	7,414.0	1,265	1,922.4	1,302
2016年	7,262.7	1,210	1,614.2	1,504
2017年	7,931.1	1,106	1,857.8	1,270
2018年	8,044.9	1,087	2,182.5	1,262
2019年	7,403.3	1,126	1,683.1	1,236
2020年			1,613.5	1,380
過去5年平均	7,611.2	1,157	1,852.0	1,309

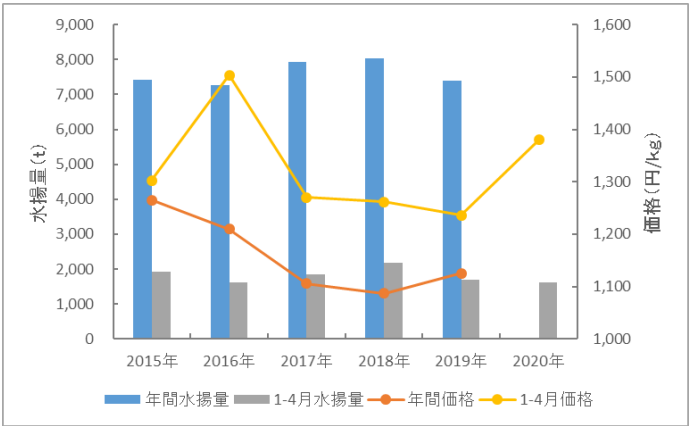


図9. 生鮮メバチの累計水揚量と価格の推移

キハダ

1～4月までの生鮮キハダの全国主要港の水揚量は、前年同期(3千200トン)を46%下回る1千700トンであった。過去5年平均と比較すると38%少なく、2015年以降で最低であった。

平均価格は、前年同期(938円/kg)の16%高の1,087円/kgであった。水揚が低調であったことから、過去5年平均の24%高で、2015年以降で最も高かった。

表10.生鮮キハダの累計水揚量(t)と平均価格(円/kg)

	年間累計		1-4月累計	
	水揚量	価格	水揚量	価格
2015年	9,861.9	806	2,790.2	931
2016年	14,542.7	613	2,308.9	903
2017年	10,107.3	753	2,080.6	938
2018年	14,813.9	732	3,585.2	741
2019年	12,518.6	749	3,212.6	938
2020年			1,730.7	1,087
過去5年平均	12,368.9	723	2,795.5	880

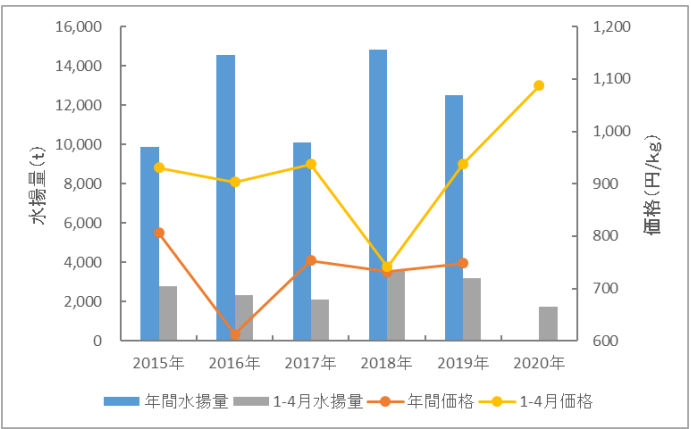


図10.生鮮キハダの累計水揚量と価格の推移

ブリ

1～4月までのブリの全国主要港の水揚量は、前年同期(1万6千トン)を16%上回る1万8千トンで、過去5年平均並みであった。3～4月は東シナ海中南部や五島沖で、産卵群を対象にまき網で漁獲し、4月以降は対馬沖や山陰沖ではまき網で、四国沖や三重沖では定置網でも好調な漁獲がみられた。

平均価格は、前年同期(314円/kg)の21%安の248円/kgで過去5年平均の8%安であった。

表11.ブリ(天然)の累計水揚量(t)と平均価格(円)

	年間累計		1-4月累計	
	水揚量	価格	水揚量	価格
2015年	60,241.1	255	21,190.6	261
2016年	48,968.3	275	13,668.5	328
2017年	61,745.7	244	21,169.2	261
2018年	48,453.0	243	22,963.6	223
2019年	50,533.2	251	15,591.0	314
2020年			18,142.1	248
過去5年平均	53,988.2	253	18,916.6	270

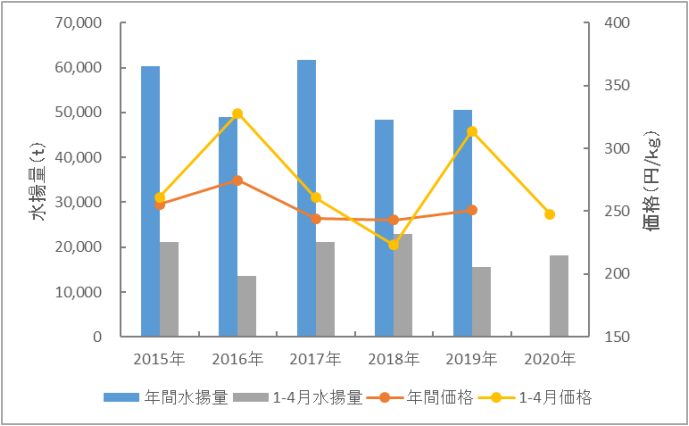


図11.ブリ(天然)の累計水揚量と価格の推移

さわら類

1～4月までのさわら類の全国主要港の水揚量は、前年同期(510トン)をやや上回る550トンであった。過去5年平均と比較すると38%少なかった。

平均価格は、新型コロナウイルスの感染拡大による外食需要の減少やスーパーの営業自粛の影響を受け、前年同期(690円/kg)の5%安の657円/kgで、過去5年平均と比べても4%安であった。

表12.さわら類の累計水揚量(t)と平均価格(円/kg)

	年間累計		1-4月累計	
	水揚量	価格	水揚量	価格
2015年	3,132.3	531	1,106.6	624
2016年	4,764.1	517	1,520.0	627
2017年	2,123.0	685	842.4	755
2018年	2,047.1	525	398.9	901
2019年	2,904.8	585	506.4	690
2020年			545.6	657
過去5年平均	2,994.2	558	874.8	683

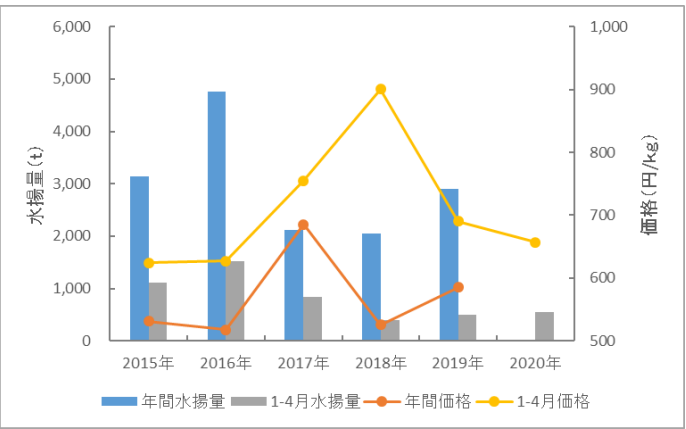


図12.さわら類の累計水揚量と価格の推移

生鮮スルメイカ

1～4月までの生鮮スルメイカの全国主要港の水揚量は、前年同期(1千750トン)をやや上回る1千800トンであったものの、過去5年平均より40%少なく、前年に続き低調な水揚であった。なお、本集計には含まれていないものの、富山湾や佐渡の定置網では、例年より遅く4月末まで好調な入網が続いた。

平均価格は、前年同期(690円/kg)の3%高の609円/kgであった。また、過去5年平均の59%高と最も不漁であった2017年に次ぐ高値であった。

表13. 生鮮スルメイカの累計水揚量(t)と平均価格(円/kg)

	年間 累計		1-4月 累計	
	水揚量	価格	水揚量	価格
2015年	71,111.5	279	6,799.8	248
2016年	36,741.6	511	3,600.3	378
2017年	30,415.3	537	1,283.4	631
2018年	24,519.4	541	1,859.2	520
2019年	26,121.5	645	1,750.4	589
2020年			1,820.6	609
過去5年平均	37,781.8	450	3,058.6	383

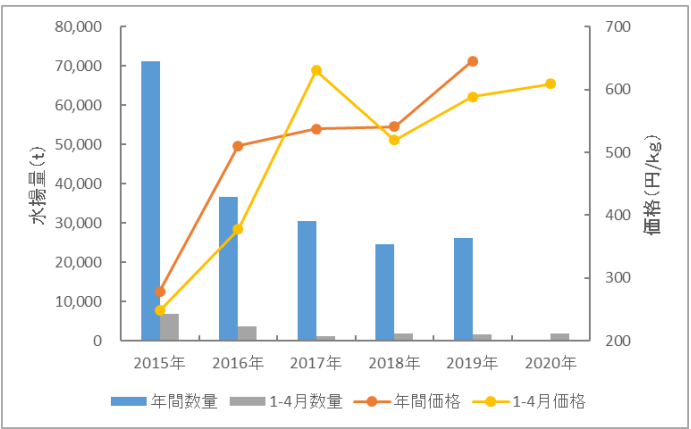


図13. 生鮮スルメイカの累計水揚量と価格の推移

冷凍スルメイカ

1～4月までの冷凍スルメイカの全国主要港の水揚量は、過去5年で最低であった前年同期(930トン)をやや上回る1千トンであった。年明けの三陸近海域のアカイカの冬季漁が不漁で、アカイカ漁を切り上げた船の一部が日本海のスルメイカ漁に廻ったものの、水揚量は過去5年平均を63%下回る低調な漁模様となった。

平均価格は、前年同期(703円/kg)の46%高の1,030円/kgであった。これは過去5年平均の2.8倍で、2015年以降で最も高かった

表14. 冷凍スルメイカの累計水揚量(t)と平均価格(円/kg)

	年間 累計		1-4月 累計	
	水揚量	価格	水揚量	価格
2015年	24,180.1	377	4,979.7	353
2016年	22,212.2	641	4,692.8	453
2017年	19,079.2	600	1,738.0	786
2018年	12,340.1	609	1,344.8	649
2019年	3,437.6	898	934.2	703
2020年			1,006.9	1,030
過去5年平均	16,249.8	559	2,737.9	495

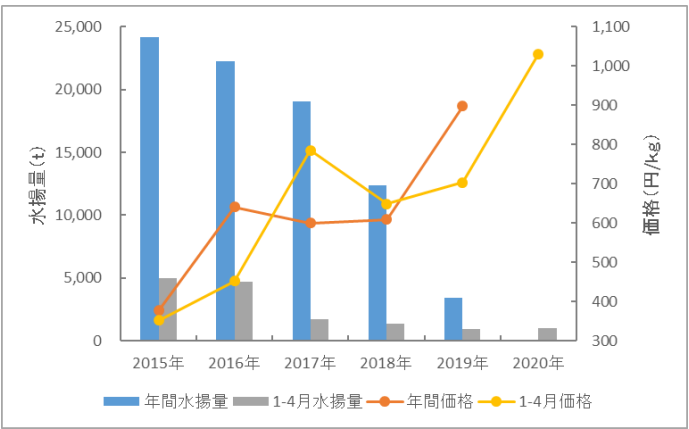


図14. 冷凍スルメイカの累計水揚量と価格の推移

ヤリイカ

1～4月までのヤリイカの全国主要港の水揚量は、前年同期(1千200トン)を12%下回る1千トンで、過去5年平均並みであった。

三陸～常磐物のヤリイカは、スルメイカの不漁を受け、代替魚種として需要が年々強くなっている。このため、平均価格は前年同期(732円/kg)の3%高の750円/kgで、過去5年平均を9%上回った。

表15. ヤリイカの累計水揚量(t)と平均価格(円/kg)

	年間 累計		1-4月 累計	
	水揚量	価格	水揚量	価格
2015年	2,740.6	674	801.1	635
2016年	3,668.2	630	1,385.3	596
2017年	3,576.1	618	936.1	760
2018年	4,288.9	643	1,175.1	720
2019年	3,209.4	740	1,216.4	732
2020年			1,064.9	750
過去5年平均	3,496.6	658	1,102.8	686

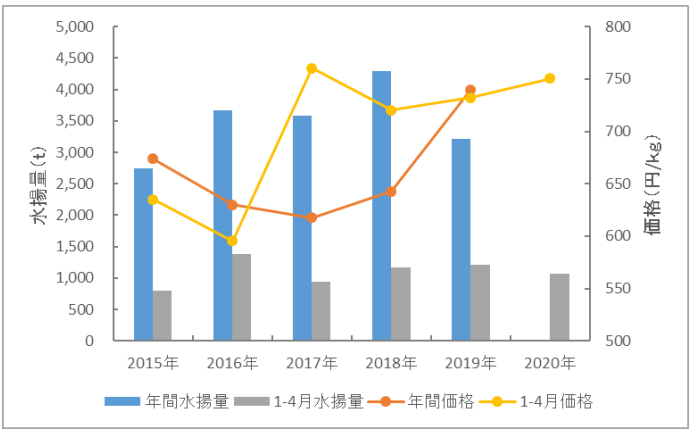


図15. ヤリイカの累計水揚量と価格の推移

ホタルイカ

1～4月までのホタルイカの全国主要港の水揚量は、前年同期(1千500トン)を24%上回る1千900トンで、過去5年平均を9%上回った。

平均価格は、富山湾・山陰の豊漁や新型コロナウイルスの感染拡大による外食需要の減少の影響もあり、前年同期(616円/kg)の49%安の313円/kgで、過去5年平均の44%安と2015年以降で最も安値であった。

表16.ホタルイカの累計水揚量(t)と平均価格(円/kg)

	年間 累計		1-4月 累計	
	水揚量	価格	水揚量	価格
2015年	1,638.0	471	1,329.0	460
2016年	2,464.7	382	2,174.0	355
2017年	2,765.1	439	2,176.0	442
2018年	1,950.9	591	1,440.2	582
2019年	2,102.3	568	1,515.1	616
2020年			1,884.2	283
過去5年平均	2,184.2	483	1,726.9	477

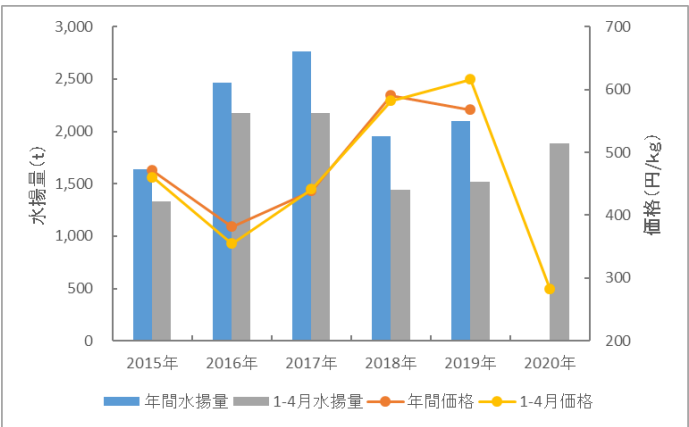


図16.ホタルイカの累計水揚量と価格の推移

マダラ

1～4月までのマダラの全国主要港の水揚量は、前年同期(1万6千トン)を10%下回る1万4千トンで、過去5年平均並みであった。

平均価格は、新型コロナウイルスの感染拡大による外食需要の減少やスーパーの営業自粛の影響を受け、前年同期(205円/kg)の17%安の169円/kgで、過去5年平均の37%安と2015年以降で最も安値であった。

表17.マダラの累計水揚量(t)と平均価格(円/kg)

	年間 累計		1-4月 累計	
	水揚量	価格	水揚量	価格
2015年	35,040.1	305	14,629.5	296
2016年	27,916.1	319	12,480.4	322
2017年	29,151.8	292	12,293.8	294
2018年	35,177.0	238	14,769.1	236
2019年	33,356.9	227	16,073.4	205
2020年			14,448.3	169
過去5年平均	32,128.4	274	14,049.3	267

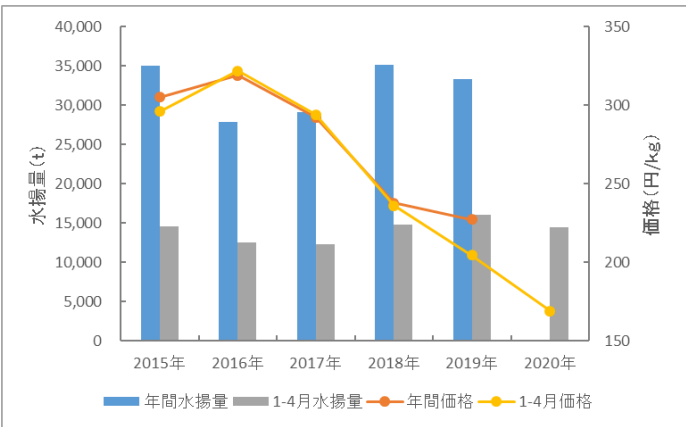


図17.マダラの累計水揚量と価格の推移

スケトウダラ

1～4月までのスケトウダラの全国主要港の水揚量は、前年同期(2万5千トン)をやや上回る2万6千トンで、過去5年平均と比較すると8%少なかった。

平均価格は、新型コロナウイルスの感染拡大により輸出が滞ったことから、前年同期(87円/kg)の28%安の62円/kgであった。また、過去5年平均の28%安と2015年以降で最も安値であった。

表18.スケトウダラの累計水揚量(t)と平均価格(円/kg)

	年間 累計		1-4月 累計	
	水揚量	価格	水揚量	価格
2015年	102,964.4	80	33,955.9	86
2016年	86,252.7	75	35,567.5	81
2017年	75,972.4	72	26,775.2	84
2018年	72,010.5	67	18,543.5	100
2019年	92,730.4	58	24,588.8	87
2020年			25,704.4	62
過去5年平均	85,986.1	71	27,886.2	86

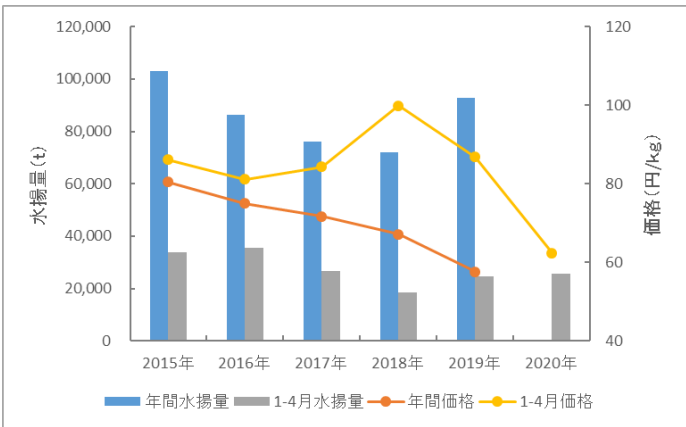


図18.スケトウダラの累計水揚量と価格の推移

ヒラメ

1～4月までの天然ヒラメの全国主要港の水揚量は、前年同期(470トン)を12%下回る410トンで、過去5年平均を22%下回り、2015年以降で最も少なかった。

平均価格は、新型コロナウイルスの感染拡大による外食需要の減少やスーパーの営業自粛の影響により、前年同期(1,181円/kg)の12%安の1,034円/kg、過去5年平均と比べても16%安で、2015年以降で最も安値であった。

表19.ヒラメの累計水揚量(t)と平均価格(円/kg)

	年間 累計		1-4月 累計	
	水揚量	価格	水揚量	価格
2015年	2,234.9	795	608.5	1,062
2016年	1,640.7	958	559.3	1,155
2017年	1,747.3	1,082	595.7	1,569
2018年	1,402.6	990	419.5	1,111
2019年	1,608.5	995	473.1	1,181
2020年			414.6	1,034
過去5年平均	1,726.8	953	531.2	1,224

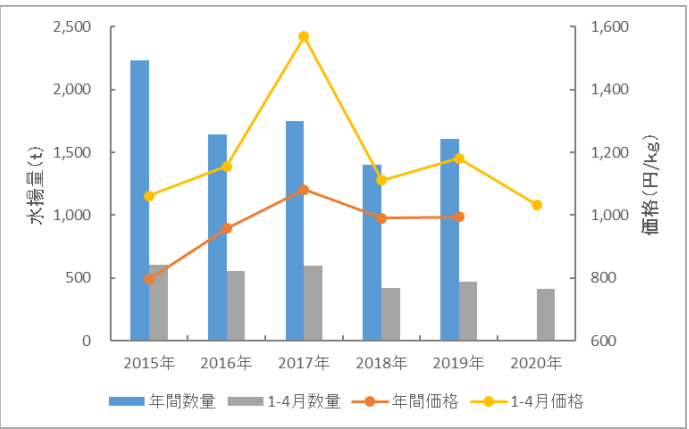


図19.ヒラメの累計水揚量と価格の推移

カレイ

1～4月までのかれい類の全国主要港の水揚量は、前年同期(4千700トン)を16%下回る4千トンで、過去5年平均並みであった。

平均価格は、新型コロナウイルスの感染拡大による外食需要の減少やスーパーの営業自粛の影響を受け、前年同期(269円/kg)並みの263円/kgで、過去5年平均の22%安と2015年以降で最も安値であった。

表20.かれい類の累計水揚量(t)と平均価格(円/kg)

	年間 累計		1-4月 累計	
	水揚量	価格	水揚量	価格
2015年	12,165.7	387	4,008.8	428
2016年	12,516.9	347	4,168.8	361
2017年	14,302.3	316	4,916.6	320
2018年	11,988.9	318	4,147.5	326
2019年	9,877.7	267	4,770.3	269
2020年			4,021.6	263
過去5年平均	12,170.3	329	4,402.4	337

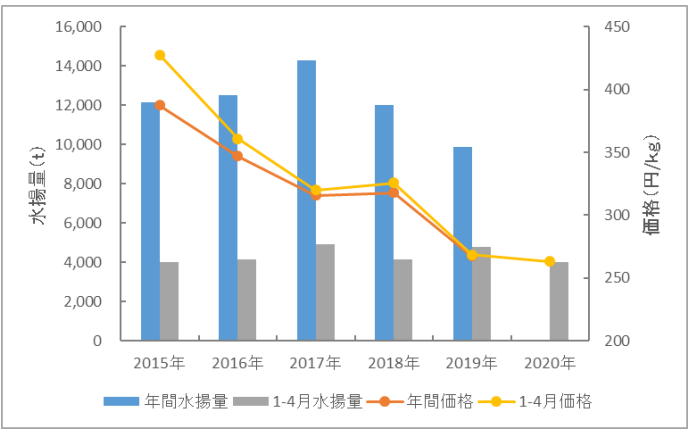


図20.かれい類の累計水揚量と価格の推移

オキアミ

1～4月までのオキアミの全国主要港の水揚量は、前年同期(1万9千トン)を90%下回る1千700トンであった。過去5年平均と比べても91%下回っており、2015年以降で最低の水揚量であった。

平均価格は前年同期(52円/kg)の85%高の97円/kgで、過去5年平均の59%高であった。

オキアミは近年、養殖魚の餌としての需要が低下し、食用向け(素干しや煎餅等)の割合が増加している。

表21.オキアミの累計水揚量(t)と平均価格(円/kg)

	年間 累計		1-4月 累計	
	水揚量	価格	水揚量	価格
2015年	25,157.3	38	25,106.0	38
2016年	15,829.1	34	15,829.1	34
2017年	13,133.4	93	13,128.5	93
2018年	13,256.8	118	13,129.5	118
2019年	19,118.8	52	19,118.8	52
2020年			1,782.0	97
過去5年平均	17,299.1	61	17,262.4	61

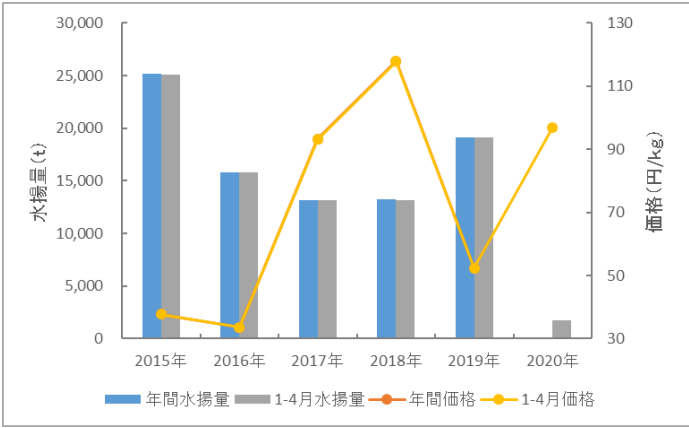


図21.オキアミの累計水揚量と価格の推移

イカナゴ

1～4 月までのイカナゴの全国主要港の水揚量は、前年同期(120トン)を95%下回る僅か6トンであった。瀬戸内海や三河湾のコウナゴ漁は近年大不漁が続いている一方、ここ数年は常磐沖のコウナゴ漁の豊漁が続き、代替産地として高値で取引されてきた。しかし、今期は常磐沖でもほとんど水揚げがなく、瀬戸内・三河湾も含め全国的に記録的な不漁となった。

平均価格は、前年同期(993 円/kg)の 36%高の 1,346 円/kg で、過去 5 年平均の 3.7 倍で、2015 年以降最も高値であった(北海道・三陸のオオナゴを含む)。

表22.イカナゴの累計水揚量(t)と平均価格(円/kg)

	年間 累計		1-4月 累計	
	水揚量	価格	水揚量	価格
2015年	9,472.7	110	2,432.0	245
2016年	5,535.8	136	1,838.9	283
2017年	7,831.1	188	1,611.1	478
2018年	8,566.2	97	880.5	527
2019年	6,800.5	72	121.0	993
2020年			5.9	1,346
過去5年平均	7,641.3	120	1,376.7	359

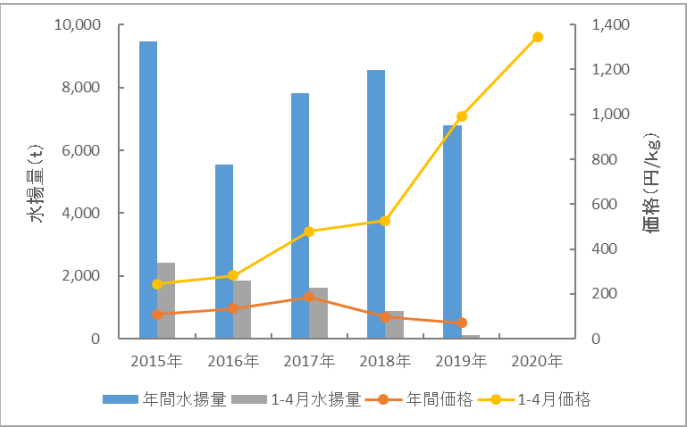


図22.イカナゴの累計水揚量と価格の推移
(水産情報部)